

富士山
まなびの森
20周年

台風による風倒被害を受けた富士山麓の森で
住友林業が復元活動を開始した富士山「まなびの森」プロジェクト。
その活動は、住友林業グループの社員や関係者を始め、
地域の皆さま、一般ボランティアなど、多くの方々に支えられています。
その歩み、現在、そして未来を3回シリーズでお伝えします。

自然林再生の軌跡

大造林計画の系譜、富士山「まなびの森」の始まり、そしてこれから

VOL.1 まなびの森の始まり

1996年9月の台風で、富士山麓に広がる国有林が大きな被害を受けました。そのうちの約90ha（東京ドーム19個分に相当）を借り受け、1998年より自然林復元活動に取り組み始めたのが、富士山「まなびの森」の始まりです。その原点となっているのが、1894年に開始され

た別子銅山周辺の「大造林計画」。かつて、過伐採と煙害によって荒廃の危機を迎えていた森林を再生させました。その歴史は、事業と自然環境との共生というCSRの原点にもなり、「まなびの森」の環境植林にも活かされています。



2001



2008



2016

2000年植林活動の様子



1996年台風直撃直後



林業体験の
枝打ち



下草刈り

